

## 名誉会員中山敬一博士のご逝去を悼む



在りし日の中山敬一本学会名誉会員（元会長）

### <略歴>

- 1934 5月7日北海道上川郡上川町に生まれる
- 1958 千葉大学園芸学部総合農学科卒業
- 1958 財団法人電力中央研究所農電研究所研究員
- 1973 千葉大学講師園芸学部
- 1974 学位取得（農学博士，九州大学）
- 1974 千葉大学助教授園芸学部
- 1988 千葉大学教授園芸学部
- 1997 千葉大学園芸学部長，千葉大学評議員，大学院園芸学研究科長併任
- 2000 千葉大学名誉教授
- 2018 10月3日ご逝去（享年84歳）

### <日本農業気象学会における主な役職>

- 1958～ 会員
- 1985 日本農業気象学会賞
- 1991～1992 関東支部長
- 1993～1994 副会長
- 1995～1997 会長
- 2000 永年功労会員表彰
- 2013～ 名誉会員

本学会元会長中山敬一先生は、2018年10月3日病氣療養中のところ心筋梗塞で逝去されました。享年84歳でした。

先生は、1958年千葉大学園芸学部総合農学科農業工作第2研究室（現在の園芸学科生物環境気象学研究室の前身）を卒業後、財団法人電力中央研究所農電研究所農業電化部勤務を経て、1973年千葉大学園芸学部に着任されました。2000年に停年退職されるまで、農業気象学一筋の研究人生を歩まれるとともに、多くの研究者の育成、教育に当たられました。

先生のご研究はこの紙面には収まりきるものではありませんが、4つにまとめることができます。

#### 1. 水稲田の水管理の合理化に関する研究

水稲田の適正な浸透量や微気象などを解明するとともに、水田における水温、用水の実態を明らかにして、掛け流し灌漑の欠点や早朝灌漑など当時の水管理の抜本的な改善の指針を示されました。

#### 2. 畑地における消費水量の効率上昇に関する研究

畑地における消費水量の効率上昇の意味、消費水量の構

成、節減すべき消費水量の構成要素とその節減に伴う効率上昇の特性等の考察を基本にして、土壌面蒸発の抑制手法（栽植密度の調節，プラスチック・マルチ，夜間灌漑，地下灌漑等）の効果と特徴を明らかにされました。1985年に、この研究と蒸発散量の推定に関する研究を含めた成果「畑地および温室における灌漑水の有効利用に関する農業気象学的研究」により、日本農業気象学会賞を受賞されました。さらなる水管理の合理化を求め、AMeDASデータの利用を中心とした耕土層の土壌水分予測に関する研究に発展されました。

#### 3. コンテナ栽培幼木の蒸発散量に関する研究

コンテナ栽培されている造園樹木からの蒸発散量について、産業の現場に即して気温と日射量から予測する方法を開発されました。現在でも、樹木生産の現場で普及しています。

#### 4. 緑陰の快適性に関する研究

人体皮膚面の熱収支の解析によって公園や街路樹の夏季における快適性を定量的に評価されました。皮膚面を通して熱が流入する様な夏の環境は暑さを感じさせ、逆に熱が流出する様な環境は快適さを感じさせるとことを明らかにされました。さらに、発汗を伴った状態における快適性や地表面温度の影響などを明らかにし、合理的な緑化に向け

<https://agmet.jp/wp-content/uploads/2021-I-1.pdf>

2020年12月28日 受付

Copyright 2021, The Society of Agricultural Meteorology of Japan

での計画指針を社会に提案されました。

以上のように、財団法人電力中央研究所農電研究所在職中は1の水田水温に関する研究、千葉大学園芸学部園芸学科在職中は2の畑地灌漑に関する研究、緑地・環境学科在職中は新しい領域である3、4の造園樹木に係わる研究を行われましたが、全て一貫して「水」、「実用性」というキーワードを追求されました。その一方で、晩年になってそのときの立場に合わせて新しいテーマにトライされたことは、われわれも見習わなくてはいけないことだと思います。

先生の研究室には、1988年に中国のカシュガルからパキスタンのラーワルピンディーまで車でヒマラヤ越えをされたときの写真が飾られていました。先生の言われていた「水あるところ緑あり、水あるところ住み家あり」という銘は、そのとき得られた感想のようです。先生の「水」に対するロマンを垣間見ることができます。

研究以外で関係者一同が忘れることができないのは、先生の謙虚さと献身のお人柄だと思います。園芸学部長をされているときでさえも園芸学部内の環境整備を自ら進んで実施され、退職後も積極的にボランティア活動をされておられました。7月にご自宅で倒れられたその日も、公園整備のボランティアをされていたそうです。そのような中、「恩師、同僚、友人に恵まれて、俺の人生は幸せだった」と繰り返し言っておられました。

様々な催しでは、毎回少しとぼけた心温まるご挨拶をいただいております。これからは先生のお話しが聞けなくなってしまい、関係者一同、空しさを覚えつつも、先生が残された献身と感謝の精神を今後も後進に伝えていきたいと思っております。

先生のご冥福をお祈りいたします。

(千葉大学 松岡延浩)